

南山大学人類学博物館

年 報

2010 年度

南山大学人類学博物館

巻頭言

人類学博物館のリニューアル計画が、今年から本格的に始動する。これまで、オープンリサーチセンターでの研究会やシンポジウム等をはじめとして、様々な場で人類学博物館のリニューアルについて検討してきた。そういう意味では、今回のリニューアル計画はかなり周知されているといつてよい。ただ、その分、博物館側にとっては大きなプレッシャーにもなる。

ところで、今回のリニューアルでは是非とも果したいことが一つある。それはユニバーサルミュージアムの視点である。ユニバーサルミュージアムとは、言うまでもなく、全ての人に開かれた博物館を意味する。ここで言う「全ての人」というのは、身体に何らかのハンディを負う人を含めた全ての人である。

最近、美濃加茂市民ミュージアムでユニバーサルミュージアムに関する講演を聞くことができた。講師は国立民族学博物館の広瀬浩二郎氏と吹田市立博物館の小山修三氏である。広瀬氏は全盲の人類学者で、「さわる文化」としての博物館展示を提唱されている方である。この講演会が実に示唆的であった。

おそらく多くの博物館関係者は、身体にハンディキャップのないいわゆる「健常者」であろう。そして、今日の博物館ではバリア・フリーが当たり前になってきているが、それは健常者が作った博物館に、障害のある人が来ることができる仕組みである。つまり、基本的には来館者としては健常者が想定されているわけで、ハンディのある人はそこに行くことができるというに過ぎない。

そこで発想を逆転し、障害を持っている人たちを中心に据えてみたらどうだろうか。障害者が楽しめ、有意義に時間を過ごせる博物館を構想するのである。現在の博物館は、いかにバリア・フリーにしても、必ずしも万全が期せるわけではない。キャプションに点字を用意しても、キャプションを読むだけでは博物館に来た意味はない。健常者にとって心地よい博物館は、障害のある人にとって心地よいわけではないのである。しかし、障害者にとって心地よい博物館はどうであろうか。それはおそらく健常者にとっても心地よい博物館となるに違いない。例えば、展示品を触りたいのは、何も視覚障害の方ばかりではない。目が見えていたって展示品に触れるものなら触りたいであろう。

ユニバーサルミュージアムを構築するためには、マジョリティの視点ではなく、あらゆる意味でマイノリティの視点に立たなければならない。

新しい人類学博物館も、人類学の博物館であり続けるためには、そうした視点を失わないように心がけたいものである。

2011年5月
南山大学人類学博物館

目次

1. 2010 年度の人類学博物館の活動	1
(1) オープンリサーチセンターの活動	1
①シンポジウム	2
(2) 教育普及活動	4
①展示	4
②講座	5
③ワークショップ(公開講演会)	6
④連携授業	6
⑤博物館実習	7
⑥その他	7
(3) 調査・研究活動	7
①調査出張	8
②研究活動	8
(4) 資料の収集・整備と利用	8
①資料修復	8
②館内の燻蒸	8
③購入図書	8
④受贈図書数	8
⑤資料貸出	8
⑥取材・調査のための来館者一覧	9
⑦撮影・他機関刊行物等への掲載	9
⑧当館紹介刊行物一覧	10
(5) 出版活動	10
2. 組織と運営	11
(1) 組織	11
(2) 開館・入館者実績	11
①開館日数・入館者数	11
②入館団体内訳	11
3. 規程	14
(1) 南山大学人類学博物館規程	14
(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程	15
(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程	16

1. 2010 年度の人類学博物館の活動

(1) オープンリサーチセンターの活動

オープンリサーチセンターも、今年で5年のプロジェクトを終了することができた。この間、実に多くの研究者に協力してもらい、研究会・シンポジウムの回数は実に 46 回を数えた。また、最終的な成果報告として「学術資料の文化資源化」(第 1 冊)、「マリンガーコレクションカタログ」(第 2 冊)、「保美貝塚の研究」(第 3 冊)、「南山大学人類学博物館所蔵考古資料の研究」(第 4 冊)、「南山大学人類学博物館所蔵の民族誌資料の研究」(第 5 冊)を刊行することができた。

さらに、年度は越えてしまうが、米軍撮影による愛知県内の空中写真や旧版地形図、そして博物館収蔵資料のデータベースが web 上で公開される予定である。こうした一連の成果は、新しい人類学博物館のあらゆる面にフィードバックされることになるであろう。

①シンポジウム

1) 弥生部会シンポジウム「高蔵遺跡に始まる弥生前期の諸関係」

日時・会場

2010 年 6 月 26 日(土) 10:00~17:00

会場:名古屋キャンパス E 棟 E11 教室

報告 1: 設楽 博己氏(東京大学)「遠賀川式と亀ヶ岡式の接点」

報告 2: 石黒 立人氏(愛知県埋蔵文化財センター)「高蔵遺跡に関する事実報告」

報告 3: 永井 宏幸氏(愛知県埋蔵文化財センター)「遠賀川系土器とその周辺」

報告 4: 前田 清彦氏(豊川市教育委員会)「条痕文系土器とその周辺」

報告 5: 黒沢 浩氏(南山大学)「高蔵遺跡をどのように展示するか?」

参加者: 41 名

2) 情報部会シンポジウム「博物館資料の文化資源化」

日時: 2010 年 7 月 24 日(土) 10:30~17:00

会場:名古屋キャンパス B 棟 B22 教室

報告 1: 河野 浩之氏(南山大学)「南山大学人類学博物館の資料デジタル化」

報告 2: 村田 良二氏(東京国立博物館)「博物館資料構造化モデル」

報告 3: 北岡 タマ子氏(お茶の水大学)「国内博物館資料情報既述の標準化」

報告 4: 渡部 展也氏(中部大学)「博物館情報展示に於ける GIS の応用」

報告 5: 研谷 紀夫氏(東京大学)「デジタルアーカイブと博物館情報」

報告 6: 丸川 雄三氏(国立情報学研究所)「文化遺産データベース」

コメント 1: 鈴木 志元氏(南山大学)

コメント 2: 八重樫 純樹氏(静岡大学)

コメント 3: 黒沢 浩氏(南山大学)

参加者: 41 名

3) 歴史部会国際シンポジウム

「ヨーロッパと東アジアの異文化展示を考える」

日時：2010年10月9日（土） 10：20～16：15

会場：名古屋キャンパス B棟 B22教室

報告1：サイモン・ケイナー氏（セインズベリー日本藝術文化研究所）

「日本文化への熱いまなざし」

報告2：榊屋 友子氏（東京大学東洋文化研究所）

「日本は如何に展示されてきたか？～韓国・中国・モンゴルの博物館の事例から～」

報告3：天羽 利夫氏（鳥居龍蔵を語る会）

「東アジアの異文化を求めて～人類学者・鳥居龍蔵とその研究～」

報告4：出利葉 浩司氏（北海道開拓記念館）

「N.G.マンローの日本文化研究とそのコレクション」

報告5：領塚 正浩氏（市立市川考古博物館）

「G.グロード神父のコレクションとその展示について」

参加者：30名

3) 人類学部会シンポジウム

「タイ北部山地民の過去・現在・未来」

日時：2010年10月16日（土） 10：00～18：30

会場：名古屋キャンパス G棟 G25教室

報告1：Kwanchewan Buadaeng氏（チェンマイ大学）

「タイ国家における北部山地民の位置づけの変遷：山地民とタイ政府の関係史」

報告2：森部 一氏（南山大学）・竹野 富之氏（東海学園大学）

「ミエン族調査報告：Padua村と Pangkha村」

報告3：吉野 晃氏（東京学芸大学）「ミエン族社会の変容と私の研究」

山地民の映像上映：Witoon Buadaeng

日時：2010年10月17日（日） 10：00～18：45

会場：名古屋キャンパス G棟 G25教室

報告1：速水 洋子氏（京都大学）「カレン族社会の変容と私の研究」

報告2：綾部 真雄氏（首都大学東京）「リス族社会の変容と私の研究」

報告3：山田 泰正氏（在日シャン民族文化協会）

「シャン族出身の日本人がみてきた山地民社会の変容」

コメント1：馬場雄司氏（京都文教大学）

コメント2：吉野 晃氏氏（東京学芸大学）

コメント3：増野 高司氏（国立民族学博物館）

コメント4：吉田 竹也氏（南山大学）

コメント5：竹野 富之氏（東海学園大学）

閉会挨拶：量 博満氏（上智大学名誉教授）

参加者：39名（16日）・20名（17日）

4) 歴史部会シンポジウム

「博物館とナショナリズム」

日時：2010年11月13日（土） 10：00～17：00

会場：名古屋キャンパス B 棟 B45 教室

報告者 1：上島 享氏（京都府立大学）「『王権』とコレクション」

報告者 2：高木 博志氏（京都大学）「文化財とナショナリズム」

報告者 3：吉田 憲司氏（国立民族学博物館）

「博物館という装置・制度の成立とナショナリズム」

報告者 4：福田 珠己氏（大阪府立大学）「地域博物館とナショナリズム」

全体進行：濱田 琢司氏（南山大学）

司会進行：永井 英治氏（南山大学）、松田 京子（南山大学）

参加者：25 名

5) 南山学会合同シンポジウム

「新・人類博物館への提言」

日時：2010 年 11 月 24 日（土） 13：30～18：00

会場：名古屋キャンパス B 棟 B11 教室

総合司会：川崎 勝氏（南山大学）

開会挨拶：ミカエル・カルマノ氏（南山大学長・南山学会会長）

趣旨説明：大塚 達朗氏（南山学会常任理事）

報告者 1：青柳 正規氏（国立西洋美術館館長）「博物館、大学博物館、デジタルミュージアム」

報告者 2：永田 英治（南山大学）「南山大学人類学博物館の歩み」

報告者 3：森田 稔氏（九州国立博物館）「博物館施設の危機管理」

報告者 4：小池 富雄氏（徳川美術館）

「新しい大学博物館像に求められる教育普及、広報、地域連携とボランティア育成」

報告者 5：川合 剛氏（名古屋市博物館）

「博物館資料の収蔵から展示まで～マリンガーコレクションを例として」

報告者 6：アッセマ 庸代氏（南山大学）「博物館の意識空間と心理～照明環境実験より～」

報告者 7：黒沢 浩氏（南山大学）「大学博物館としての人類学博物館」

閉会挨拶：青木 清氏（南山大学副学長・人類学博物館長）

参加者：80 名

6) 人類学部会シンポジウム

「ニューギニアの物質文化」

日時：2010 年 12 月 14 日（火） 17：00～19：20

会場：名古屋キャンパス B 棟 B46 教室

趣旨説明：黒沢 浩氏（南山大学）

基調講演：フランソワ・シゴー氏（仏・人類学者）

「Comprendre les techniques pour comprendre les sociétés 社会を理解するための技術研究」

報告者 1：後藤 明氏（南山大学）「島嶼部」

報告者 2：早川 正一氏（南山大学名誉教授）「高山地帯」

参加者：20 名

7) 東アジア部会シンポジウム

「考古学と地域分析」

日時：2010年12月18日（土） 9：45～17：00

会場：名古屋キャンパス B棟 B21 教室

報告者1：西江 清高氏(南山大学)

「中国西周王朝の「都城」空間一周原地域の集落分布をめぐって」

報告者2：茶谷 満氏（鳥取県埋蔵文化センター文化財主事）

「漢代都城と皇帝陵—長安・洛陽の比較を通して—」

報告者3：木村 光一氏(名古屋市立鳴海東部小学校)「韓半島三国時代政治体中枢の空間構成」

報告者4：原 久仁子氏(多治見市文化財保護センター学芸員)

「地図と写真にみる大須二子山古墳」

報告者5：伊藤 秋男氏(南山大学名誉教授)

「明治初期の地籍図による文化的景観分析—名古屋市中区新栄と春日井市神領地域の場合—」

報告者6：渡部 展也氏（中部大学）

「歴史空間情報の整備と分析—濃尾平野を中心とした地形と遺跡立地—」

参加者：26名

8) 縄文部会シンポジウム

「縄文晩期社会—渥美半島保美貝塚遺跡の研究より—」

日時：2010年12月18日（土） 9：30～17：00

会場：名古屋キャンパス B棟 B22 教室

報告者1：坂口 隆氏（南山大学人類学博物館 オープンリサーチセンター）

「保美貝塚の調査史に照らした南山大学調査地点の意義」

報告者2：大塚 達朗氏（南山大学）「保美貝塚の安行 3c 式土器と杉田 A 類壺」

報告者3：川添 和暁氏（愛知県埋蔵文化財センター）

「保美貝塚の骨角器・石器—南山大学所蔵資料の特徴とその意義—」

報告者4：蜂須賀 敦子氏（名古屋大学大学院）

「南山大学所蔵の保美貝塚出土動物遺体—シカ・イノシシを中心に—」

報告者5：長田 友也氏（本学非常勤講師）「保美貝塚からみた晩期社会の在り方」

報告者6：山田 康弘氏（島根大学法文学部）「保美貝塚にみる墓制の様相」

コメント：吉田 泰幸氏(金沢大学博士研究員)

討論司会：奥野 絵美氏(愛知県埋蔵文化財センター)

参加者：36名

（2）教育普及活動

① 展示

1) 特別展示

『道具を回路で考えよう』

会期：9月24日（金）～11月20日（土）

会場：名古屋キャンパス G棟 人類学博物館ロビー

期間中の入館者：1,511 名

2) 南山大学博物館実習生による企画展示

第 1 期：11 月 26 日（金）～12 月 1 日（水）

- ・『楽器の叫び』
- ・『和 鏡』
- ・『見てみよう！服の顔』？
- ・『関西の名所を巡ろう～大正と昭和の写真から～』
- ・『今に生きる伏見城四百年の時を越えて』

第 2 期：12 月 9 日（木）～12 月 16 日（木）

- ・『僕らは弥生探検隊！ 入門 ac 編』
- ・『Color of Melanesia』
- ・『Nanzan@69—私たちの知らない、学生運動—』
- ・『岐阜市の治水 古地図からみる長良川の歴史』
- ・『江戸時代の村人の暮らし』

会場：名古屋キャンパス G 棟 人類学博物館第二展示室・人類学博物館ロビー

期間中の入館者：266 名

② 講座

博物館の本来的な機能である普及事業の一環として、南山大学学生を含めた一般の方々を対象として、博物館講座とフィールドワークを開催した。

博物館講座は当館に収蔵されているユニークかつ豊富な資料を前に、専門的研究者の解説を聞きながら、資料と博物館に対する理解を深めていただくことを目的としている。2010 年度は、「かくこと、よむことの人類学」を主題とし、文字・図像・数字といった記号と「図的表現を生み出す能力」をもつ人類との関係性を探った。定員 30 名に対して 18 名の申し込みがあった。

フィールドワークは東海地方の考古学的な遺跡を現地で観察し、実感していただけるような機会を提供することを目的としている。観察する遺跡は、当館所蔵資料と関係の深い遺跡を中心に設定しており、現地で遺跡を観察することによって、当館の展示のより深い理解へと繋げる契機ともなっている。定員 10 名に対して 11 名の申し込みがあった。

1) 2010 年度博物館講座『技術の人類学』

第 1 回 6 月 5 日（土）中村 雄祐氏（東京大学准教授）

「文書：その仕組みと使われ方の歴史」

第 2 回 6 月 19 日（土）茂登谷 清文氏（名古屋大学准教授）

「眼差しの歴史—もうひとつの写真の見方」

第 3 回 7 月 3 日（土）西江 清高氏（南山大学教授）

「神々の^{ことば}辞から国家の装置へ—漢字はどのように生まれたのか—」

第 4 回 7 月 17 日（土）坂井 信三氏（南山大学教授）

「かくこと、よむことのひらいてきた世界」

2) 2010 年度フィールドワーク『東海の考古遺跡を歩く』

第 1 回 10 月 23 日 (土) 事前指導 講師：黒沢 浩氏 (南山大学准教授)

第 2 回 11 月 7 日 (日) 大野町・揖斐川町周辺の古墳群

現地講師：中井正幸氏 (大垣市教育委員会)

第 3 回 11 月 21 日 (日) 矢作川流域の遺跡① 西三河平野部の遺跡

現地講師：西島庸介氏 (安城市埋蔵文化財センター)

第 4 回 12 月 5 日 (日) 矢作川流域の遺跡② 豊田市内の遺跡

現地講師：森 泰通氏 (豊田市教育委員会)

第 5 回 12 月 11 日 (土) 事後指導 講師：黒沢 浩氏

申込者数：11 名

③ ワークショップ (公開講演会)

博物館スタッフ・教職員・大学院生等を対象として、博物館の活動や運営に対する最新情報、人類学博物館に対するアドバイスをセミナーにおいていただいた。加えて、同一講師によるワークショップ (公開講演会) を同日に開催した。ワークショップでは、学外の方々も対象に含め、三葉虫をテーマに指導していただいた。

日時：5 月 27 日 (木)

講師：大野照文氏 (京都大学総合博物館)

18:00~19:30 ワークショップ「三葉虫を調べよう」

場所：名古屋キャンパス G 棟 人類学博物館・学習室

参加者：30 名

④ 連携授業

人類学博物館と名城大学附属高等学校との学習連携が始まって、今年で 5 年目を迎える。

今年度は、2 年生を対象とした「異文化の理解」・「総合学習の時間」の授業の中で、人類学博物館収蔵の考古資料・生活資料を使い、日本文化に対する関心と、理解するための方法を身につけることを目標とした。そのため、実物を触ったり、観察したりする機会のもとより、自分たちの手で自分たちのテーマを掘り下げていく「調べ学習」にも重点をおいて指導をおこなった。また、タイやニューギニアの人びとの文化を知る手段として、映像鑑賞を取り入れた。

今回の授業の総括として、各自が選択したテーマに関する発表をおこなわせた。成果を多くの人に評価してもらう機会を作ると同時に、プレゼンテーションの難しさや楽しさを学ぶ機会を提供した。

連携授業は以下の日程でおこなった。

10 月 5 日 (火) 趣旨説明・意見聴取：日本文化って何？

課題提供：タイムスリップ～自分たちが昔へ行ってしまったらどうなる？

10 月 12 日 (火) 博物館見学：博物館資料の読み解き方

10 月 19 日 (火) 課題への質疑応答、狩猟採集生活についてのレクチャー

実技：縄文を作る！

11 月 2 日 (火) 課題の中間報告・質疑応答

授業：「昭和」の一品／逸品

11月9日（火）博物館見学：実物を手にとって見る

11月16日（火）映像鑑賞

11月30日（火）成果発表準備

12月7日（火）成果発表

⑤ 博物館実習

他大学からの学外博物館実習生受入れを実施しており、本年度は愛知学院大学から1名を受入れた。

⑥ その他

1) 南山大学学長室主催 南山大学連続講座 2010「大学で、未来の自分を探してみよう！」

日時：7月4日（日）10：00～12：30

会場：人類学博物館

テーマ：第4回「博物館の不思議なモノたち。」

参加者：42名

2) 明治大学博物館連携講座シンポジウム

「博物館資料の境界—自明性への問い—」

日時：2010年1月8日（土） 10：00～17：00

会場：名古屋キャンパス B棟 B22教室

基調講演：加藤 隆浩（本学外国語学部教授）「文化」は誰のものか？」

報告者1：落合 弘樹（明治大学文学部教授）

「藩政史料と歴史研究—旧藩主家史料の再評価—」

報告者2：黒沢 浩（本学人文学部准教授）

「＜昭和＞をめぐる歴史と記憶—現代生活資料をどのように展示するのか—」

報告者3：外山 徹（明治大学博物館学芸員）「瀬戸赤津焼の「伝統」への再評価」

報告者4：松田 京子（本学人文学部准教授）「展示される人間—学術人類館をめぐって」

参加者：44名

（3）調査・研究活動

① 調査出張

1) 愛知県博物館協会研究会

日時：6月11日（金）

内容：文化財保存修復学会プレイヴェントとしての研究会「ミュージアムと保存 身近なことから、ところから」への参加。

出張者：竹尾 美里

2) 愛知県博物館協会総会

日時 6月29日（火）

内容：滋賀県立琵琶湖博物館環境学習センター所長 布谷知夫氏の講演会「博物館・美術館の現代的役割と相互連携」への参加

出張者：竹尾 美里

② 研究活動

博物館セミナー

日時：5月27日（木）

講師：大野照文氏（京都大学総合博物館）

内容：「博物館で学びが起きるとき」

会場：人類学博物館学習室

（４）資料の収集・整備と利用

① 資料修復

鋤先 1 点・鉄 2 点・鉄製品一式 2 点（愛知県愛知郡長久手町神明社古墳群出土）、鏡下布片 1 点、鉄刀一式 2 点、馬具 1 点（愛知県名古屋市白山藪古墳出土）。

② 館内の燻蒸

8 月 28 日（土）実施

③ 購入図書

71 冊

④ 受贈図書数

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
984	566	332

⑤ 資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
大阪府立近つ飛鳥博物館	大須二子山古墳出土資料 16 点	2010 年 4 月 24 日～ 2010 年 6 月 7 日	特別展「継体大王の時代―百舌鳥・古市古墳群の終焉と新時代の幕開け―」にて展示
豊田市郷土資料館	市塚古墳出土資料 4 点、調査アルバム	2010 年 3 月 1 日～ 2010 年 7 月 31 日	新修豊田市史「弥生・古墳時代資料編」作成のため
名古屋大学博物館	保美貝塚出土動物骨・人骨 12 点 縄文式土器 13 点	2010 年 3 月 22 日～ 2010 年 7 月 20 日 2010 年 3 月 15 日～ 2010 年 7 月 20 日	特別展 名古屋大学博物館・南山大学人類学博物館合同企画「縄文のタイムカプセル―貝塚―」

南山大学人文学部 後藤 明教授	ニューブリテン島の ファイヤードンス用 仮面 ニューアイルランド 島のマランガン様式 の彫像 計8点	2010年11月21日～ 2010年11月22日	2010年度人類学フェスティ バル 「人類学のおもちゃ箱」
国立歴史民俗博物 館 国立民族学博物館	評皇券牒1点 十八神像18点	2010年5月26日～ 2010年12月16日	企画展「アジアの境界を越え て」

⑥取材・調査のための来館者一覧

来館者名	資料名・点数	実施日
京都国立博物館	南山聖堂古窯出土品	2010年5月31日、7 月20日
元興寺文化財研究所	大須二子山古墳出土馬具・武具一式	2010年7月26日
京都府立大学大学院 初村武寛氏	大須二子山古墳出土甲冑類一式	2010年8月31日～ 2010年9月6日
南山大学人文学部 後藤 明教授	ニューギニアのアウトリガーカヌー6点	2010年9月27日
青木 義脩氏	姥山貝塚出土土器群約30点	2010年10月19日～ 2010年10月22日
ヤオ族文化研究所	ヤオ人文書一式	2011年3月15日

⑦ 撮影・他機関刊行物等への掲載

機関名	資料名	刊行物名等	刊行予定
有限会社 アート・ エフ	二ツ木貝塚出土 深鉢型土器1点	『夏の生活 社会 歴史 I』	2010年7月上旬
株式会社 山川出版 社	二ツ木貝塚出土深鉢1点	文部科学省検定済教科書 (高等学校日本史)	2013年4月
株式会社 たき CI	轡f字型鏡板付・鉄地金堂 張 辻金具 雲珠 杏葉 画文帯四神四獣鏡 各1点	『中経連—CHUKEIREN』	2011年1月
国立民族学博物館	評皇券牒1点 十八神像18点	『みんぱくカレンダー』 2010年後期版	2010年10月

市立史川考古博物館	堀之内貝塚出土 縄文土器 1 点	企画展『市川出土の縄文土器』 図録	2010 年
Michael Hamson	アウフェナングー資料 平皿 1 点	『Art of Boiken』	2011 年
有限会社樹林舎	大須二子山古墳出土画文 帯四神四獣鏡 1 点	『地籍図で探る古墳の姿 (尾張編) 一塚・古墳デー ター一覧』	2010 年 3 月
東京都教育委員会	稲荷台遺跡出土土器片 8 点 新井遺跡出土土器片 16 点	『文化財の保護』第 43 号	2011 年 3 月
東京法令出版株式会 社	二ツ木貝塚出土 平底土器 1 点	中学歴史資料集 『ビジュアル歴史』	2011 年 4 月

⑧ 当館紹介刊行物一覧

機関名	内容	刊行物名
株式会社 北白川書房	紹介文・写真	『月刊 なごや』2010 年 11 月刊行
株式会社 K&B パブリッ シャーズ	紹介文・写真	『SEIBIDO MOOK 大人の街歩き 名古屋』 2009 年 5 月刊行

(5) 出版活動

1. 『南山大学人類学博物館紀要』第 29 号
2. 『南山大学人類学博物館年報 2010 年度』
3. 『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2010 年度年次報告書』
4. 『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2010 年度年次報告書 付編 研究会
シンポジウム資料』
5. 『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 成果報告書』全 6 巻

2. 組織と運営

(1) 組織

1) 職員

館長	青木 清	(副学長(教学担当)／法学部教授)
担当教員	黒沢 浩	(人文学部人類文化学科准教授)
特別嘱託職員	長尾美里	(2010年1月1日着任)
	西川由佳里	(2010年11月1日着任)
臨時職員	伊東亜紀	(2009年4月1日着任)
	手塚朋子	(2009年9月21日着任)

2) 博物館運営委員会

委員長	黒沢 浩	(人文学部准教授)
委員	西江清高	(博物館学芸員養成課程委員会委員長)
	加藤隆浩	(外国語学部教授)
	大塚達朗	(人文学部教授)
	渡部森哉	(人文学部講師)
	東 誠	(教育・研究支援事務室長)

3) 資料評価委員会

委員長	大塚達朗	(人文学部教授)
委員	加藤隆浩	(外国語学部教授)
	野口博史	(総合政策学部准教授)

2) 開館・入館者実績

①開館日数・入館者数

開館日数	入館者数(授業以外)	団体数	団体人数
279	1,674	70	4,349

②入館団体内訳

・大学見学

日付	団体名	人数	担当課室
4月21日	静岡県立浜松西高等学校	39	入試課
4月22日	滋賀県立河瀬高等学校	76	入試課
4月23日	岐阜県立可児高等学校	40	入試課
4月30日	私立鈴鹿高等学校	17	入試課
5月7日	愛知県立岩倉総合高等学校	40	入試課
5月11日	愛知県立一色高等学校	33	入試課
5月12日	私立麗澤瑞浪高等学校	34	入試課
5月13日	私立美濃加茂高等学校	140	入試課
5月27日	愛知県立武豊高等学校	40	入試課
5月27日	愛知県立豊田東高等学校	80	入試課
5月28日	愛知県立尾北高等学校	40	入試課

6月2日	愛知県立新城東高等学校	40	入試課
6月3日	愛知県立安城南高等学校	3	入試課
6月3日	私立愛知工業大学名電高等学校	30	入試課
6月10日	岐阜県立加納高等学校保護者	70	入試課
6月12日	愛知県立安城高等学校保護者	40	入試課
6月16日	愛知県立名古屋西高等学校保護者	40	入試課
6月17日	愛知県立南陽高等学校	40	入試課
6月22日	南山国際高等学校保護者	61	入試課
6月25日	大垣日本大学高等学校	70	入試課
7月1日	愛知県立豊田高等学校保護者	116	入試課
7月1日	名古屋市立桜台高等学校保護者	48	入試課
7月5日	愛知県立御津高等学校	73	入試課
7月7日	富山県立大門高等学校	28	入試課
7月7日	三重県立四日市西高等学校	56	入試課
7月7日	愛知県立岡崎北高等学校保護者	90	入試課
7月8日	三重海星高等学校保護者	20	入試課
7月8日	岐阜県立可児高等学校	42	入試課
7月9日	三重県立桑名西高等学校	20	入試課
7月9日	私立名古屋経済大学高蔵高等学校	25	入試課
7月20日	三重県立宇治山田商業高等学校	80	入試課
7月22日	愛知県立東海南高等学校保護者	40	入試課
8月3日	愛知県立豊橋南高等学校保護者	32	入試課
8月4日	愛知県私立豊川高等学校	26	入試課
8月24日	岐阜県立岐阜第一高等学校	21	入試課
9月30日	長野県立飯田風越高等学校	80	入試課
10月8日	岐阜県私立中京高等学校	47	入試課
10月18日	静岡県立清水商業高等学校（保護者含）	50	入試課
10月21日	長野県立松本美須ヶ丘高等学校	34	入試課
10月22日	愛知県立杏和高等学校	50	入試課
10月22日	静岡県立藤枝西高等学校	40	入試課
10月27日	静岡県私立聖隷クリストファー高等学校	28	入試課
10月28日	静岡県立島田高等学校	40	入試課
11月5日	愛知県私立愛知産業三河高等学校	33	入試課
11月9日	南山高等学校女子部	40	入試課
11月11日	岐阜県立各務原西高等学校	119	入試課
11月12日	愛知県立惟信高等学校保護者	40	入試課
11月15日	南山高等学校男子部保護者	60	入試課
11月16日	三重県立松阪高等学校保護者	40	入試課
11月17日	静岡県立浜松南高等学校	26	入試課

12月7日	岐阜県立瑞浪高等学校	30	入試課
12月9日	長野県立伊那弥生ヶ丘高等学校	42	入試課
12月10日	長野県立岡谷南高等学校	45	入試課

・大学行事

日付	行事名	人数
7月18日	オープンキャンパス	951
9月25日	父母のつどい	103
10月11日	体験入学会	188
3月19日	保護者のためのオープンキャンパス	123

・大学見学以外の団体

日付	団体名	人数
4月14日	二季の会	52
4月22日	名古屋市立大学	49
5月8日	文京大学	15
6月16日	名古屋大学	40
6月23日	飛鳥村立飛鳥学園飛鳥中学校	28
8月24日	同朋大学	6
9月11日	エスコラピオス学園海星高校	14
9月21日	愛知県立総合看護学校	45
9月22日	愛知県立総合看護学校	45
10月6日	名古屋市立高年齢大学鯉城学園地域学科 19期卒業生	23
10月6日	COP10「古代文明フォーラム」参加者	10
10月20日	名古屋女子大学	10
10月28日	犬山市立楽田小学校	4
11月15日～22日	名古屋大学	28
12月27日	聖霊高等学校	26
1月18日	名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校	7

3. 規程

(1) 南山大学人類学博物館規程

(目 的)

第1条 南山大学学則第44条の2にもとづき、南山大学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

② 博物館は、「人類学（文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。）」（以下「人類学」という。）に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、南山大学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

③ 博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

(事 業)

第2条 前条第2項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- 1 人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析
- 2 人類学の展示および公開
- 3 人類学に関する情報提供
- 4 人類学に関する教育研究の支援
- 5 博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営
- 6 博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

(館 長)

第3条 博物館に館長を置く。館長は副学長（教学担当）とする。

② 館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

(担当教員)

第4条 博物館に博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）を置く。

② 担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

③ 担当教員は、学長が指名する候補者について、大学評議会の承認を得て委嘱する。

(運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定する機関として南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

② 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(資料評価委員会)

第5条の2 第2条第1項第1号に定める収集事業を適正に遂行するために、南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「資料評価委員会」という。）を置く。

② 資料評価委員会に関する規程は、別に定める。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この規程は、2005 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006 年 7 月 1 日から施行する。

（２）南山大学人類学博物館運営委員会規程

（目 的）

第 1 条 南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第 5 条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定することを目的とする。

（組 織）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）
 - 2 博物館学芸員養成課程委員会委員長
 - 3 学長より指名された者若干名
- ② 委員は、大学評議会の承認を経て、学長が委嘱する。
- ③ 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（所掌事項）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 1 博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項
- 2 博物館資料の収集選択に関する事項
- 3 博物館関係規程の制定または改廃に関する事項
- 4 博物館の事業に関する事項
- 5 その他博物館の管理運営に関する重要事項

（議事運営）

第 4 条 委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

- ② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- ③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
- ④ 委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。
- ⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（事 務）

第 5 条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

（規定の改正）

第 6 条 この規定の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

（雑 則）

第 7 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2005 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006 年 7 月 1 日から施行する。

（３）南山大学人類学博物館資料評価委員会規程

（目 的）

第 1 条 南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第 5 条の 2 にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）において行なう博物館資料の収集に関する事項を協議し、決定することを目的とする。

（組 織）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 南山大学人類学博物館運営委員会委員 2 名
 - 2 博物館長より指名された者若干名
- ② 委員は、大学評議会の承認を得て、学長が委嘱する。
- ③ 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（所掌事項）

第 3 条 委員会は、博物館資料の寄贈の申入れについて、南山大学人類学博物館運営委員会の諮問に基づき、その可否を審議、決定する。

（議事運営）

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- ② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- ③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
- ④ 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。
- ⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（事 務）

第 5 条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

（規程の改正）

第 6 条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

（雑 則）

第 7 条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2006 年 7 月 1 日から施行する。



2011 年 5 月 31 日 印刷

2011 年 5 月 31 日 発行

南山大学人類学博物館年報 2010 年度

編集・発行 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

phone 052 (832) 3111 内線 5223

印刷 株式会社ウエルオン

460-0007 名古屋市中区新栄 3-21-31

TEL 052 (732) 2227